かたらい

第93号

平成31年1月1日

発行　社会福祉法人　とちぎ健康福祉協会

～ 健康経営　みんなの力で　あふれる笑顔 ～

〒320－8503 栃木県宇都宮市駒生町3337－1
TEL（028）622－2846
FAX（028）621－1422
【URL】http://www.kenkoufukushi.com
【E－mail】kenkoufukushi@arion.ocn.ne.jp

～那珂川苑～

年頭にあたって

理事長　和田裕二

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、平成の結びのお正月を健やかに迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、当協会の基本指針である「とちぎ健康福祉協会基本計画（三期計画）」のスタートの節目の年であると同時に、当協会の基幹業務の一つである指定管理業務の指定管理候補者の選考の年でもありました。「那珂川苑」については、本年三月をもってその長い歴史に幕を閉じることとなりましたが、「とちぎ健康づくりセンター」及び「とちぎ生きがいづくりセンター」については、本年四月から五年間、当協会が引き続きその管理を県から委託されることとなりました。

施設の建替整備に関しては、本年夏頃を目途に「桜ふれあいの郷」については着工を、「支援センターふれあい」については完工を目指し、現在、設計業務を進めているところであり、いずれも利用者の方々をはじめ、全ての皆様に喜んでいただける素晴らしい施設となるよう、しっかりと取り組んで参る所存です。

今年は、当協会にとって業務内容も働き方も変革を迫られる、新たなスタートの年となります。私も、職員の皆様と力を合わせ、大いに奮起して業務を推進して参りますので、特段の御協力をお願いいたします。

結びに、今年一年が皆様にとりまして、また当協会にとっても、実り多い素晴らしい一年となりますことを、御祈念申し上げます。

那珂川苑の営業終了にあたって

所長　柳田　則昭

那珂川苑は、昭和五十六年の国際障害者年を記念し、全国で三番目の障害者更生センターとして、昭和五十八年に開設されました。

これまでに、栃木県内はもとより、関東地方を中心に多くの方々に利用していただき、開設から三十六年目に当たる今年度、お陰をもちまして五十五万人目の宿泊利用者をお迎えすることができました。

この間一貫して、お客様に安全に、そして安心してご利用いただけるよう、職員一同「お客様ファースト」の運営に努め、施設・設備はもとより応接においても真に「ひとにやさしいバリアフリーの宿」を目指してきました。

しかしながら、民間施設におけるバリアフリー化の進展、施設の老朽化や利用者の減少等により、今年度末で廃止されることとなり、平成三十一年三月十八日のチェックアウトをもって営業を終了することとなりました。

これまで長年にわたり運営を続けてこられましたのも、那珂川町や関係機関、団体からのご支援・ご指導とともに、地元の民話語りや生け花の創作展示等、「癒しと安らぎづくり」において地域の皆様のボランティアとしてのご協力があったからこそと感謝申し上げます。

そして、何よりも那珂川苑を愛し、那珂川苑を応援してくれたたくさんのお客様の存在が我々を励ましてくれました。

那珂川苑の営業終了を惜しむ声がたくさん寄せられている今、お客様への感謝とともに、このような施設に育て上げてくれた先輩職員の皆様に改めて敬意を表します。

営業終了後の那珂川苑の建物等については、栃木県が実施するプロポーザルにより、地域振興や福祉の向上に寄与できる事業者に譲渡（売却）される予定です。今後も皆様に愛される施設になるものと期待しています。

最後になりますが、我々職員は、那珂川苑の運営に携われたことに誇りを持ち、これまでの経験で得た知識・技能を、協会内の別の現場で活かしていきたいと考えています。

共に歩んで…

開設当時「至れり尽くせり」と言う言葉が毎日のようにお客様から言われたことを思い出します。
館内の設備、料理、接遇のどれも素晴らしい、障害者にとって最高の宿との評価でした。
私たち職員は、殆ど20代。また保養所の仕事も初めてで、この言葉は、仕事をするうえで励みになりました。
開設から36年目を迎え、３月に廃止となり、惜しむ声がたくさん出ているのもありがたく感じています。
ここでの沢山の出会いが、良い思い出となっています。感謝、感謝

係長　大金　穣

那珂川苑が閉苑してしまう事はお客様共々万感の思いです。
永年お世話になりました

嘱託職員　佐藤春雄

開所時から閉所時に、携わることができました。できることなら、定年を一緒に迎えたかったなと思います。悲しいことに、苑も老朽化？私も老齢化…。
お客様から「やっぱり、とうとうね。」と言われないよう、残り少ない日々を惜しまれて終わりたいと思います。

主任　笹沼友子

平成15年に、知り合いの紹介で、働くことになりました。
最初は覚えることが沢山あり、自分に勤まるか心配で、同僚の皆さんと同じように仕事をするのが大変でした。聴覚障害のお客様に話しかけられ、身振り手振りで話が通じたときは、嬉しかったです。
那珂川苑が３月で終わってしまうのは、残念です。お客様からも、泊る所がなくなってしまうと話しかけられました。沢山のお客様に喜んでもらえていたと思います。
15年間、お世話になった職員の皆さん、ありがとうございました。

パート　尾賀美那子

各課・施設情報

指定管理について

事業部

当協会の公益事業の一つとして、事業部では、協会本部のある「とちぎ健康の森（宇都宮市駒生町）」の中にある「とちぎ健康づくりセンター」と、県南支所（栃木市）と県北支所（矢板市）を含む「とちぎ生きがいづくりセンター」の管理運営を行っています。

両センターの運営管理については、栃木県から指定管理者としての指定を受けて、平成十八年度から本年度末までの十三年間の三期にわたり、県民誰もが安全・安心して快適な施設利用ができるよう施設の適正管理と、県が掲げる施策を実践する場として県民の健康づくりや生きがいづくりに資する事業を実施してきました。

このたび、県が平成三十一（二〇一九）年度から五年間の両センターの次期指定管理者の選定に係る公募が昨年七月に公表されたことから、事業部内の関係課で構成する「サービス向上委員会」を中心に提案書に盛り込む内容を協議・検討し、同年九月には指定管理者指定申請書を提出しました。

その後、十月には県の指定管理者選考委員会におけるプレゼンテーションによる審査を経て、十二月県議会の議決をいただき、正式に次期指定管理者として選定されました。

今後は、県と当協会が具体的な取り決めを協定書として締結するとともに、今回の提案内容に基づき新年度からの指定管理業務に必要な準備作業を進めています。

そして、五年間の指定管理期間における達成目標として、両センターの施設利用・管理や、健康づくり事業、生きがいづくり事業（主にシルバー大学校）に区分した九つの目標を掲げ、その実現に取り組むこととしました。

新たな取組としては、働く世代の健康づくりを支援するため、企業等への施設利用を積極的に働きかけたり、健康づくり講座・レッスン等を企業等へ出向いて行う予定です。これにより施設内のプール・トレーニング室等の利用者を平成二十九（二〇一七）年度の八一、八七九人から五年後には八六、〇〇〇人にする数値目標を掲げました。

また、生きがいづくり事業ではシルバー大学校の創設四十周年記念事業を行うとともに、学生や卒業生による地域住民を対象にした健康づくり講習会等を開催するなど、両センターの特性を生かした新たな事業を展開する予定です。

施設利用・管理	目標1	利用者の安全・安心を的確に確保します。
	目標2	利用者ニーズや利便性を考慮した施設運営に努めます。
	目標3	新たな利用者を呼び込む仕組みづくりに取り組みます。
健康づくり事業	目標4	健康寿命の延伸、健康格差の縮小を目指す取組を進めます。
	目標5	地域や団体等に出向いて講座やレッスンを実施します。
	目標6	ノウハウを生かし新たな独自講座等の創出に取り組みます。
シルバー大学校	目標7	地域課題等を反映した学習カリキュラムを提供します。
	目標8	卒業後の地域活動に繋がる効果的な仕組みを作ります。
	目標9	当協会の関連施設や他の事業等と連携した取組を進めます。

桜ふれあいの郷建替えについて

総務課

道路の案内板に沿って車を走らせ、上り坂を過ぎほどなくすると、四季の移ろいを感じさせる木々に囲まれた建物群、「桜ふれあいの郷」が見えてきます。当施設は、主に知的障害児・者の方達が利用する障害児入所施設・障害者支援施設で構成されており、総定員が約二五〇名となる大きな施設です。

昭和五十年開所と歴史ある施設ですが、老朽化が著しいこと、また、新耐震基準以前の建物であることから、利用者の安全確保のために建替整備を重要課題と位置づけ、法人内で議論を重ねてきました。その結果、現在の施設を使いながら、敷地内への新施設建築に向け動き出したところです。

今後については、平成三十一（二〇一九）年度から平成三十二（二〇二〇）年度にかけて新施設の建築工事を予定しています。そのため、今年度は、「安全安心で誰もが住みやすい施設」づくりをテーマとし、居室の個室化やユニットケアの一部導入などを盛り込んだ施設整備計画に沿って、昨年度に着手した設計をまとめるとともに、建築予定地の既存体育館解体等工事を完了することとしています。

慣れ親しんだ体育館等が無くなることへの名残惜しさもありますが、新しい施設への期待を胸に、今後とも、関係する方達と協力し合いながら、一歩ずつ歩みを進めていきたいと思います。

平成三十年度全事協関東・甲信越ブロック職員研修会

総務課

十一月二十一日、とちぎ健康の森大会議室を会場に、平成三十年度全事協関東・甲信越ブロック職員研修会が開催されました。

本研修会は、関東・甲信越ブロックの各都県の持ち回りにより毎年実施されているもので、今年度は当協会が担当県として開催したものです。

当日は、全国社会福祉事業団協議会をはじめ、関東・甲信越ブロックの社会福祉事業団から十事業団八十三名の役職員の出席があり、二つの講演という構成で開催しました。

第一部の講演では、特定非営利活動法人ふくし@JMI理事長小湊純一氏から「高齢者、障害者の権利擁護と福祉のコンプライアンスルール～より良い福祉サービス提供のために～」と題して、また、第二部の講演では、田園調布学園大学人間福祉学部社会福祉学科教授村井祐一氏から「社会福祉法人が広報を行う意義とは～存在意義を発信し、信頼される事業所となるためには～」と題して講演をいただきました。

どちらの講演も、社会福祉施設の運営や社会福祉法人の制度改革を進めて行く上で大変貴重なお話であり、好評のうちに終了しました。

行事あれこれ

わかくさ秋祭り

わかくさ

九月二十三日、秋空の下、入所者、ボランティアの皆様、地域の皆様、子どもから大人まで総勢百六十名を超える方々の参加をいただき、「わかくさ秋祭り」が盛大に行われました。

オープニングは尊徳太鼓保存会の皆様による迫力ある演技。続いては、今年初めてご協力いただいた栃木県警の皆様による白バイ走行、音楽隊の演奏、カラーガードの演技が舞台を彩りました。曲に合わせ自然と身体が動いて会場が一体となり、参加者のテンションが最高潮になったところで、模擬店スタート。今年初のエアー遊具は子ども達に大人気！何度も列に並び歓声を上げている姿が印象的でした。

わかくさには十人の職員しかおりませんので、このような大きな行事は、ボランティアの方々の協力が無くては成り立ちません。今年も祭りの運営や設営を手伝って頂いたホンダ労組の皆様には感謝申し上げます。

猛暑のため開催時期を秋に変更した「わかくさ秋祭り」は今年もたくさんの笑顔で溢れました。ご支援いただきました皆様、ご参加下さった皆様には心より感謝申し上げます。

第三十九回 桜ふれあいの郷まつり

桜ふれあいの郷

十月二十日、第三十九回桜ふれあいの郷まつりが開催されました。

桜ふれあいの郷まつりが開催される時期は、雨に悩まされることが多いのですが、今年度は天気に恵まれ、見事な快晴でした。

カラオケ大会では、昨年度惜しくも緊張してしまい歌えなかった利用者さんが、今年度も参加して頑張りました。結果は、何ヶ月も前から練習したこともあり、見事に大きな声と笑顔いっぱいで歌い切ることが出来ました。

バラエティーショーや歌謡ショーを観ながら利用者さんが楽しみにしていたお昼ご飯。利用者の皆さんのテンションは、最高潮に達しておりました。模擬店でカレーライス、から揚げ、やきそば、肉まん、アイスクリームとそれぞれ好きな食べ物を買って、美味しそうに食べていました。皆さん、満面の笑みを浮かべており、本当に楽しそうでした。

利用者さん、ご家族と、たくさんの笑顔が見られると私たち職員も嬉しくなり、頑張って良かったと思います。これからも利用者さんやご家族が楽しめる行事を続けていきたいと思います。

栃木県障害者文化祭 ～カルフルとちぎ2018 こころのつどい～

清風園

空いっぱいに青色が広がる、最高の天気。十時の開始時間を待たずに、たくさんの方々が来場していました。パンに焼き菓子、アクセサリー、観葉植物など、様々なお店が軒を連ね賑わいを見せていました。宝木保育園の園児たちもみんなで手を繋ぎ、仲良く遊びに来てくれました。

前回までは二日間開催されていた文化祭も、今年は一日限りの開催ということで、二日分のエネルギーを一日で出し切るよう気合十分。目の前の鯛焼きの行列に負けないよう、お客様を呼ぶ声もどんどん大きくなり、身体も少しずつ前に押し出され、いつの間にかテントの外から声を掛けていました。

桜ふれあいの郷のおいしそうなやきそばの香りの力もお借りして、たくさんの方に清風園の製品を見ていただくことができました。カラフルに染色された草木染めやかわいい巾着袋、ビーズのブレスレットや刺繍ハンカチなど、どれも大好評でたくさんの方に喜んでいただきました。

宝木保育園　夏まつり

宝木保育園

七月七日、軒下で色とりどりの七夕飾りが揺れる中、宝木保育園の夏まつりが行われました。夏まつりは、園児の社会性を養い、また保護者同士の親睦を深めることを目的に毎年開催しています。今年度はあいにくの空模様の下でのスタートとなりましたが、浴衣や甚平、法被に身を包み登園してきた子ども達の表情は晴れやかで、祭ばやしの音色に心を躍らせているようでした。

年長児の開会の言葉でお祭りスタート。山車と神輿のお清めを行った後、園児代表で年長児が神輿を担ぎ遊戯室内を練り歩きました。会場内に響き渡る「わっしょい、わっしょい！」のかけ声が、お祭ムードをさらに活気づけてくれました。

模擬店が始まると、かき氷や水ヨーヨー、やきそば等のお店に列ができ、家族や友達同士で買い物を楽しむ様子が見られました。また、今年も桜ふれあいの郷と清風園に、手作りパン等の出店に協力していただきました。

そして今回は、音楽が好きな栃木県の職員の方々で結成されたマロニエウインドオーケストラに、吹奏楽演奏を披露していただきました。様々な管楽器の音色に赤ちゃんから大人まで耳を澄ませ聴きいっていました。そのような中、外はすっかり雨もあがり、最後の親子盆踊りは園庭で行うことができました。たくさんの方々のご協力の下、笑顔溢れる楽しいお祭となりました。

ねんりんピックとちぎ2018

第三十一回全国健康福祉祭 とやま大会開催

事業企画課

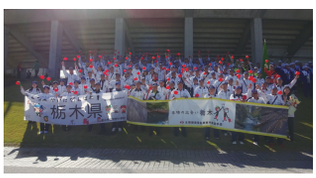
十一月三日から六日の四日間、第三十一回全国健康福祉祭とやま大会（愛称：ねんりんピック富山二〇一八）が、富山県下十五市町で開催されました。

栃木県選手団は、団長の和田理事長以下役員八名と選手百四十名が参加しました。また、美術展にシルバー作品展応募作品から優秀作品十二点を出品しました。

大会期間中は天候に恵まれ、総合開会式やスポーツ交流大会等、選手の怪我もなく無事に終了いたしました。

今回の成績は、特に水泳では、全国優勝が個人平泳ぎ男子八十歳以上五十mの他、準優勝二種目、三位五種目となりました。その他グラウンド・ゴルフ個人優勝、太極拳優秀賞、マラソン七十歳未満男子三kmで五位、五kmで四位、七十歳以上女子三kmで六位、健康マージャン個人の部優勝となりました。美術展でも、洋画部門で銀賞に輝きました。

栃木県選手団の平均年齢は、六十八・五歳、最高齢は弓道女子の八十八歳でした。

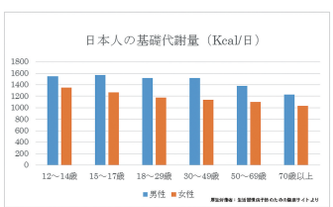


健康のワンポイントアドバイス

年齢を重ねると痩せにくい？

「食べる量は昔と変わらないのに体重が増えてしまう」、「ダイエットしても以前のように体重が減らない」などと、感じる方もいるかと思います。年齢を重ねると太りやすくなるのでしょうか？

答えは「太りやすい」です。理由の一つとして、「基礎代謝量」（生命を維持するためのエネルギー量）が、年齢とともに低下するからです。基礎代謝量は、1日の消費エネルギーのうち約7割を占めています。基礎代謝量低下の主な原因は、年齢とともに筋肉量が低下することがあげられます。男女とも、十代のピーク後どんどん基礎代謝量は低下します。若いころと同じような食生活をしていたら、体重は増えてしまいます。年齢の変化に負けず、基礎代謝を上げるには、日頃から筋肉を意識した運動を行うことがポイントになります。



室内でもできる筋トレをご紹介します。写真の「しこふみ」です。足腰を中心とした大きな筋肉を鍛えることができます。意識的に体を動かし、身体活動量をあげるよう心掛けてみましょう。